

「令和4年度 第1回 和泉市医療と介護の連携推進審議会」意見一覧

追加資料

【当日出された意見・回答等】

	意見内容	当日の回答
1	令和2年度実績、工項で人生会議(ACP*1)結果を本人、家族、医療介護専門職との共有のための手帳の検討にかかる課題と今年度の達成はどうか	(事務局) ●今年度は、手帳が市販されている状況を踏まえ、市として求められることを検討中 ●入退院地域連携会議での覚書を活用 ●知っ得講座で追加した人生会議(ACP)等での意見により必要に応じて新たなものの構築をコーディネーター等と協議、検討中
2	審議会での課題について、方向性を明確にし、専門部会での検討により、さらに課題を見つけることが正しい流れでは	(事務局) ●人生会議(ACP)について、専門職だけでなく、市民も巻き込んでいきたい ●知っ得講座の項目に追加して、市民の方に周知啓発していければ ●手法や知識等不足のところもあり、市民周知に関する助言等をいただきたい
3	●積み上げについての振り返りは必要だが、手帳等単年での作成は内容的に難しいので3年計画とか期限を設けての検討が望ましいのでは ●全くゼロからのオリジナルでなく、国の案をたたき台にして期限を決め、具体的な成果に向けて取り組むことも検討しては	(会長) 覚書を活用して変更していくとか、まずは形にすることがいいのでは
4	●繰り返し出てきているACPの話が、手帳の有無に関わらず、ACPの中身を決めないと高齢者の尊厳が守れない ●救急車で急性期病院に運ばれてからのことについては高齢者の尊厳に関わると思うので、ぜひ進めてほしい ●手帳をいきなり完成形にしようとするのではなく、仮のものを作り試行して、ブラッシュアップされてはいいかがか	(会長) 急性期病院の方も、治す医療プラス支える医療の両方が必要になるので、完成品でなくてもいいので手帳あるいは覚書の作成に取り組む必要あり
5	事業所間連携に関すること 訪問看護以外のサービスが入れない、家族が熱を出すと利用者も濃厚接触者扱いでサービスが利用できない状況で、住み慣れた場所でそれまでの生活を支えるということを考えた時に、市立病院の認定看護師が施設等で感染の話をしてくださっているが、利用や訪問に関する正しい知識をサービス事業所に得てもらうこともサービス継続には必要。サービス事業所側の困った課題の把握も踏まえ、今後の活動方針や研修目的を明確にし、1、2年では無理でも3年後はできるように、まずここまで取り組みますと出した方がいい	
6	啓発に関すること ●市民への勉強会などの参加人数について、応募時点で人数を想定しているのか ●対象市民や医療機関、介護施設、自宅療養の方への周知についてはどうか	●医療介護関係者向けの研修会について、把握している関係機関や事業所等にFAX等で広く周知 ●地域住民への普及啓発として地域出張型在宅医療介護セミナーと市民フォーラム等については、市のホームページ、広報等への掲載やチラシにより校区長会議で周知 ●人数の想定は、地域出張型在宅医療介護セミナーは20名以上の団体が申込み、市民フォーラムは和泉市コミュニティセンターでの映画上映について、新型コロナウイルス感染対策として、会場の半分程度の定員